

連珠つておもしろい

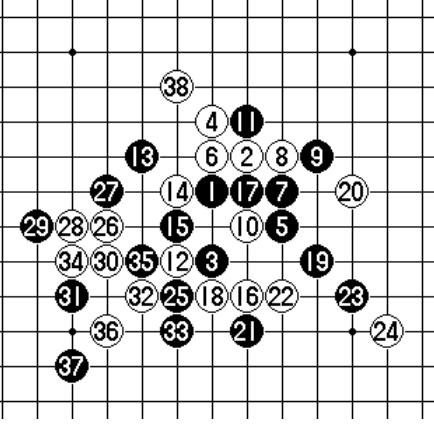
● 第128回 ●

■チーム世界戦②

今回は前回の続き、チードル世界戦の局をお届けしよう。最近は初心者、初級者指導が多かつたので、世界トップレベルの棋譜を解説するのは難しいが、ポイントを絞つて紹介したい。

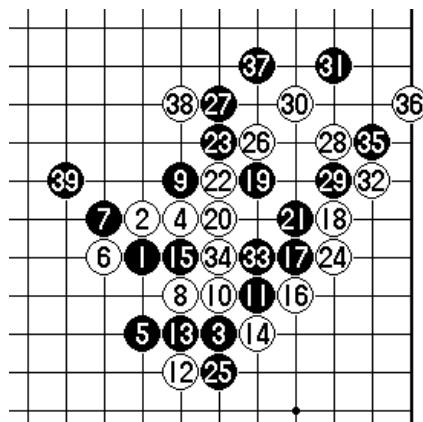
黒日本1日本2藤田麻衣子中山智晴
2回戦は自國同士が組ま
れることが多い。優勝争い
に影響を与えるため、後半
には自國同士は組み合わせ
ないためである。日本チ一
ム同士が激突した。日本チ一
珠 明星で白4はいかにも五
くわからぬが、これなら
る。黒5で互角なのがよ
くわかるが、これなら

どちらを持つても打てる気がする。白6では一路左に打ちたいが、同じように黒7に打たれると少し損な気がする。黒11ではつい17に三を引いてしまいたくなるが、それでは狭い。17の点はお互いに相手に打つて欲しい場所になるため、黒17で黒石が入ることになつては白の作戦は成功だろう。以下何とかついて行つたのだが、白38で白は気分が良い展開になつた。この後右下で白は勝ちを示している。白が貫録を示した。

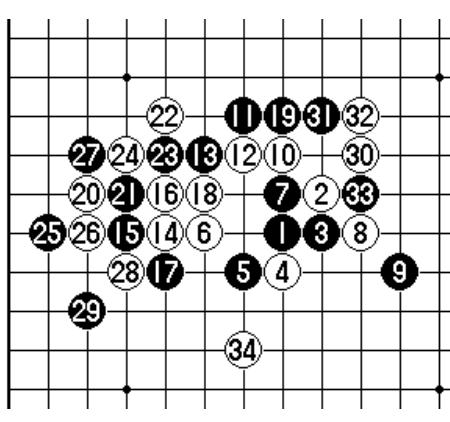


同じく日本チーム同士の一戦。今度は日本2チームの福井君が勝ち、下剋上となつた。福井君が実戦を打つのも久しぶりなのではないだろうか。A級棋士を見事に撃破した。

遊星から明星共通に戻り 黒 19 まではよくある形だが、白の無理攻めを誘つて 黒 39 に手をまわしては黒好調。以下ほどなく黒勝ちとなつた。福井君、A級にまた出てきてよ！

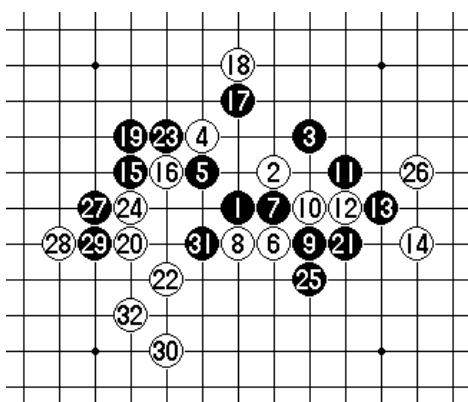


台湾は非常に好プレーだ。その中でも林君は名人を争うメンバーで、本局は屈指の好勝負だろう。黒5までなら白6と打ち白に不満はない。黒が好きな選手でもここから勝つのは至難の業だ。序盤の駆け引きから面白く、黒13にすかさず白14と攻撃したのは鋭い。黒19反対は三々禁になる。30で決まったかに見え

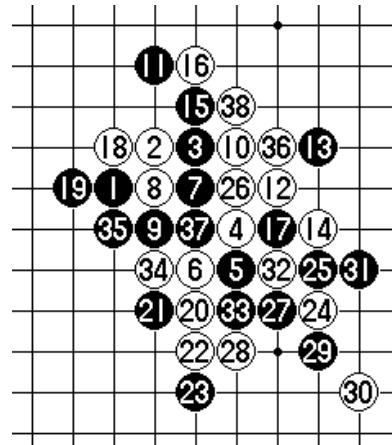


白	黒	2	回	戦
日	日			
本	本			
1	2			
館	福			
雅	井			
也	暢			
白	黒	3	回	戦
日	台			
本	湾			
1				
神	林			
谷	皇			
俊	羽			
介				

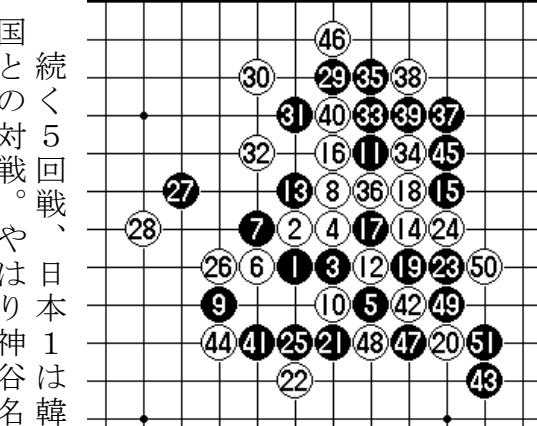
林書玄さんは今の台灣では最強ではないかと思う。本局は中山君の勘違いだが、よく読んでいる。黒21の手抜きが敗着で、白22から攻められた。慌てて黒23と止めめたが、白24が成立する。直前で止めた白18の石が光つていて、黒25を26なら



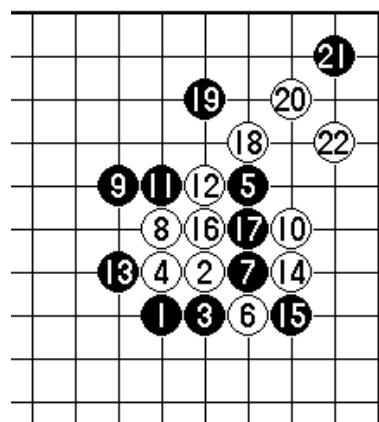
戦は日本2と中国1が当たつた。何とか1勝もぎ取りたいところだ。だが、中国はやはり強かつた。名前に恐れたか、丸田君の手も伸びない。黒11は捻りすぎで普通に12と叩く所だらう。最後、黒27と余分な三を打つたばかりに止めた石を使われて勝ちを出されてしまつた。結局中国1は0勝4敗であつた。



続く5回戦、日本1は韓国人との対戦。やはり神谷名人は頼りになる。白の無理攻めを誘つて快勝した。ただ、この形はずいぶん昔に白勝ちの結論になつたと思うのだが、本局は雲月からのスタートなので盤端までの距離が一路違う。そこに神谷名人の研究があつたのではないかと思う。黒25とじつくり押さえ、最後にその石を使って勝つのは研究



同じく5回戦、日本2は
中国2との対戦。中国に連
続で当たるのはやはりキツ
イ。世界戦優勝経験がある
曹冬との対戦になつたが、
少しでも強さを吸収してほ
しい。そういう意味では
少々物足りなかつた。田中
君の打つた黒13は一目で
ダメとわかる手で、もう少
し粘りたかつた。



たが、黒31が粘りのある防ぎ。白はいつたん34に防いだ。以下難解な展開が続き、白90まで白勝ちとなつた。

● 4回戦　白25と止めて、これが含み手になつていてるのがミソだ。

● 5回戦
黒日本 1
白韓国
神谷俊介
Lee Ho Junee

の現れである。こういふ細かい所を作戦にすると勝率も上がつてくる。